

目次

巨大なアルビノニジマスを捕まえた	（新村 祐南）	1
平成 21 年度年次総会報告	（事務局）	3
第 4 回「川の自然と文化」講演会報告	（事務局）	8
せせらぎ	（事務局）	8

巨大なアルビノニジマスを捕まえた

新村 祐南

“ 皆さんこんにちは ”。私は昨年、信大名誉教授吉田利男先生のご紹介で NPO 法人「川の自然と文化研究所」の会員に参加させて頂いた新参者ですが、よろしくお願ひ致します。

今回は、私のまったく専門外の話ですが「アルビノニジマス」の捕獲について、報告をさせていただきます。

私は、これまで長年にわたって、「大王ワサビ農場」の水環境について観測調査を行ってまいりましたが、その調査中にワサビ田の湧水群の流れが集まって最初に河川となる観測地点で、巨大な「アルビノニジマス」を手掴みで捕獲しました（図 1）。

「アルビノニジマス」と言う魚は、別名「レインボ-トラウト」とか「ゴ-ルデントラウト」等と呼ばれるサケ目サケ科サケ属のニジマスの変種で、体色はメラニン色素が抜けて黄金色をしています。



図 1 対象地域図

捕獲地：安曇野市穂高 1692（大王ワサビ農場内（下流 NO.13 地点）） 図 2 参照

捕獲日：2007 年 11 月 27 日（AM10:15）気温 6.9、水温 12.4

体形：体長 72cm、体重 3.9kg（アルビノニジマスは、インターネットからもその特徴や釣果が検索できます）

性別：雌（産卵期で体内に抱卵状態）

捕獲直後に長野県明科水産試験場で同定して頂いたところ、これほど体長・体重が大きく巨大なアルビノニジマスは非常に珍しく、年齢は 6~7 年位で産卵後はおそらく寿命が尽きるであろうとのことでした（正確な年齢は、耳石を調べないと分からないとのこと）。

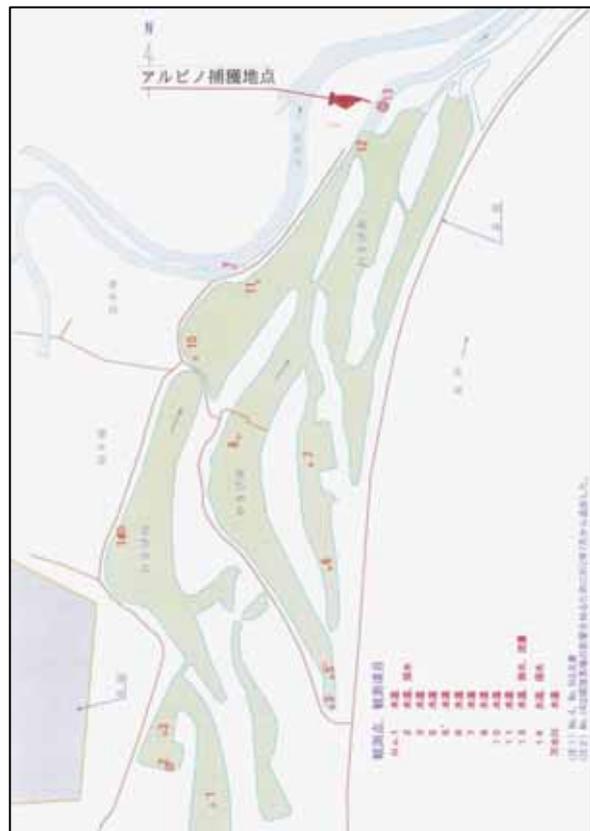


図 2 水環境観測地点位置と捕獲地点

本捕獲地近傍は、犀川・穂高川・高瀬川の三川合流地点であり、その他中小河川として、万水川と欠の川、大王ワサビ田湧水群起源の流れ等が合流しています。そのうち、捕獲地付近の万水川と欠の川（通称三角島地点）には、ニジマスやアルビノニジマスの養魚場があります。



写真1 アルビノニジマスの捕獲地点(矢印)

今回捕獲したアルビノニジマスは、おそらくこれらの養魚場から逃げ出し、この合流地点より下流に下り、生坂ダムの存在によってそれより下流に降下することができずにダム湖で大きく成長し、産卵期に遡上してワサビ田湧水河川に入ったものと考えられます。

ニジマスは、有用食用魚として北米より日本へ1877年（明治10年）に移入された外来魚で、各地の溪流や湧水地帯で養殖、放流が盛んに行われています。多くの河川では放流しても定着せず、実際の河川で見つかるニジマスの大半は放流個体であるといわれます（自然繁殖は難しい）。比較的きれいな水を好むため、在来のサケ科魚類（イワナ、ヤマメ等）の生息に影響を与える可能性も指摘されているようです。

吉田先生のお話では、欠の川に遡上してきた多くのニジマス個体が、淵尻の瀬（礫底）で産卵床を掘る繁殖行動を見ているが、その後、孵化・稚魚の観察はしていないので、実際に繁殖に至ったのかは不明である、とのことでした。冷水を好むものの、サケ科魚類としては高温にも水質にも広い耐性を持つようです。

私の10年以上に及ぶ今回の捕獲場所（下流No.13）での水温測定結果では、湧水起源の河川のため、年間を通じて10～15の範囲にあります。水質も10年間で多少悪くなっているとは言え、名水百選に値するきれいなものです。

それに対し、すぐ脇を並走して流れる万水川の水質は、冬季と夏季の差が激しく、冬季は10以下になり夏季は15以上になることもしばしばです。

また、近年では万水川や欠の川の汚染が目立ちます。特に万水川は住居地を流下するため、河川への生活ゴミの投棄が著しく（ビニール、サンダル、古自転車、なんでもござれの状況です）、さらに水田・農耕地での化学肥料・農薬等の使用が水質汚染の進行を速めていると考えられます。

今回のアルビノニジマス捕獲事件は、単に「繁殖に好都合な河川への遡上」というだけでなく、万水川や欠の川の水質悪化に対する一つの警告現象とも言えるのではないのでしょうか。

水産試験場の説明では、アルビノニジマスは体色が黄金色をしているため非常に目立ち、ワシタカ類に突つかれたりして体に傷が多いのが普通であるが、この個体は非常にきれいな体をしており、ここまで無傷で成長できたことは稀なことである、と言われました（捕獲された地点は、長年トビの営巣地でもあります）。



写真2 明科水産試験場のアルビノニジマス(体長約30cm)

その後、捕獲したアルビノニジマスは、標本にしました（写真3）。捕獲後に全身の皮を剥ぎ、魚体骨格のみにして乾燥させ、再度皮を貼り付けて彩色するようです。製作に半年程度かかりました。アルコール漬けの標本は、長年の間に退色し、元の魚体色が分からなくなる恨みがあります。



写真3 捕獲した個体の剥製標本(体長72cm、体重3.9kg)

平成 21 年度年次総会報告

事務局

平成 21 年 7 月 4 日、長野県松本勤労者福祉センターにおいて、平成 21 年度年次総会が開催されました。その概要をご報告します。

(第 1 号議案) 平成 20 年度事業報告

1 事業の成果

運営の総括

平成 20 年度の活動として、6 月の第 3 回川の自然と文化講演会のほか、研究集録第 1 号の発刊、自然観察会、あづみの環境フェスタ 2008 等各種イベントへの参加を行いました。しかし、ホームページの充実化や活動助成事業への応募、その後の研究集録の発行、フィールドプログラムに関しては、その具体化、展開が不十分であった点は反省材料です。

【活動の基本的スタンス】

川を中心とした水に関する自然、社会、歴史・民俗を調査・研究すること

これらの情報を蓄積し、地域にわかりやすく伝えること

豊かで潤いのある風土 - 河川・流域環境の保全と創出 - を目指し、地域と一緒に活動すること

組織運営

平成 20 年度の組織運営では、今後の会の活動展開に向けた検討作業（ホームページ更新、助成事業、会員確保のための方策等に対する方針・取り組み方策の検討）会の紹介活動（環境フェア等各種イベントへの参加、研究発表会の開催、安曇野市「わの会」登録等）を行いました。

しかし、組織運営活動として、情報発信や会員相互の交流機会の確保等について、また活動資金の確保について、十分な展開を図れませんでした。

今後とも、対外的な情報発信・アプローチ等の活動機会の確保、会員相互の交流機会の確保、活動の担い手の確保、活動資金の確保など、更に積極的な展開を図っていく必要があります。

(1) 会員管理

会員数 一般 22 名 学生 10 名

会員データ管理：会員登録情報の整備、MLへ

の登録。

(2) 理事会の開催

	開催日	参加者	内容
第 8 回 理事会	9 月 17 日 (松本市民活動サポートセンター)	3 名	第 3 回安曇野フェスタについて フィールドプログラム実施状況について ジャスコ・イエローシート中間報告 ホームページの充実化に向けて
第 9 回 理事会	12 月 13 日 (松本市民活動サポートセンター)	7 名	活動報告 安曇野市市民活動サポートセンター「わの会」登録について
第 10 回 理事会	4 月 18 日 (松本市民活動サポートセンター)	6 名	活動報告 第 4 回総会及び川の自然と文化講演会について 今後の川の自然と文化講演会の展開について フィールドプログラムについて 活動資金について

(3) 事務局会議の開催 3 回

(4) ホームページの更新 (H21.6 月公表)

2 事業内容

本年度活動は、次表に示すとおりでした。

活動テーマとその展開に関して、会の内外に情報を効果的に提供することが不十分で、必ずしも十分な展開を図れなかった点は反省材料です。

次年度は、さらに内外に対して積極的な対応を図っていきたく考えています。ご支援をお願いします。

第 3 回川の自然と文化講演会

(6 月 28 日 松本勤労者福祉センター：概要はニュースレター No. 7 に紹介)

有賀 均氏 (有賀わさび園代表、信州山葵(わさび)農業協同組合理事)

「安曇野のワサビの話し」

東城幸治氏 (当 NPO 理事、信州大学理学部生物学科)

「松本平における外来水生生物について」

北川久美子氏 (信州大学大学院)・島野光司氏 (当 NPO 理事、信州大学理学部物質循環学科)

「放棄水田の植生復元のための埋土種子評価」

「松本平における外来水生生物について」

研究集録 第 1 号

「日本人の川と水への意識」(笹本正治氏)

事業計画のテーマ及び内容

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1.河川域の生物多様性及び自然環境保全・再生のための企画、計画、実施及び評価 (環境保全を図る活動)	・プールの水生昆虫調査(豊科南中)	6/9	安曇野市	5名	多数	0
	・水路の自然観察会(豊科東小)	8/18		3名	15名	0
2.地域伝統文化、歴史記録保存のための調査、整理 (環境保全を図る活動)	・明科自然体験交流センター水辺観察会	8/30		3名	12名	
3.河川域の自然・社会・文化に係わる情報の収集整理 (社会教育の推進を図る活動)	・助成事業の関連情報の収集整理	随時	松本周辺	2名	多数	1
	・長野県内河川の流域別関連情報の収集整理	随時	千曲川犀川	3名	多数	0
4.技術的指導、提言・助言、情報提供、普及啓蒙 (社会教育の推進を図る活動)	・川の自然と文化講演会の開催	6/28	松本勤労者福祉センター	12名	約50名	90
	・研究集録第1号の発行	6/25		3名	多数	70
	・信州自然科学館2008 自然と遊ぶ	8/2-3	信大理学部	5名	多数	10
	・あづみの環境フェスタ2008	10/4	国営アルプス公園	3名	多数	2
	・ハクチョウの餌付け自粛要望について	10-11月		1名	多数	0
	・松本市市民活動フェスタ2008	12/14	総合社会福祉センター 豊科公民館	2名	多数	1
・あづみ野環境塾体感!パネル展	2/28		1名	多数	0	
5.環境保全に係わる団体等の活動支援、ネットワーク作り、交流促進 (関連団体との連絡、助言、援助の活動)	・ニュースレターの発行	9/30	事務所	3名	多数	0
	・信州ミーティング	9/10	長野市	1名	多数	2
	・安曇野市「わの会」総会	3/15	市民活動センター	2名	多数	0

ニュースレター

第7号(9月30日)

- ・豊科東小学校周辺の自然観察の報告(3)(山田徳生氏)
- ・平成20年度年次総会報告(事務局)
- ・第3回川の自然と文化講演会報告(事務局)

観察会

- ・プールの水生昆虫調査(豊科南中学校:6月9日)
- ・水路の自然観察会(豊科東小学校周辺:8月18日)
- ・明科自然体験交流センター(8月30日)

パネル展示等

- ・信州自然科学館2008 自然と遊ぶ(8月2-3日:信州大学理学部)
- ・第3回安曇野環境フェスタ(10月4日:国営アルプスあづみの公園)
- ・松本市市民活動フェスタ2008(12月14日:松本市

総合社会福祉センター)

- ・あづみ野環境塾 体感!パネル展(2月28日:豊科公民館)

その他

- ・環境省中部環境パートナーシップオフィス 信州ミーティング(9月10日:長野県庁)
- ・ハクチョウの餌付けに対する自粛要請について(10~11月:野生生物資料情報室・信州ツキノワグマ研究会と共同提案)
- ・安曇野市市民活動センター「わの会」への団体登録(12月:年会費、施設当直分担有り)
- ・ジャスコ東松本店 幸せの黄色いレシートキャンペーン(レシート投函BOX)2008/5~2009.3
21,600円分の商品 パソコンソフト(HPビルダー)、PPC用紙購入(色紙・再生コピー紙)

(第2号議案) 平成20年度会計報告

貸借対照表(平成20年6月1日から平成21年5月31日まで)

科目	金額(単位:円)		
資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金	20,295		
普通預金	35,348		
ゆうちょ銀行	23,000		
未収金	30,000		
流動資産 合計		108,643	
2 固定資産			
什器・備品	0		
固定資産 合計		0	
資産の部 合計			108,643
負債の部			
1 流動負債			
前受金	15,000		
仮受金	90,000		
流動負債 合計		105,000	
2 固定負債	0		
固定負債 合計		0	
負債合計			105,000
正味財産の部			
前期繰越正味財産		108,332	
当期正味財産増加額		▲ 104,689	
正味財産合計			3,643
負債及び正味財産 合計			108,643

会計収支計算書(平成20年6月1日から平成21年5月31日まで)

科目	金額(単位:円)		
経常収入の部			
1 会費収入			
・正会員会費(22名分)	66,000		
・学生会員会費(10名分)	10,000		
・賛助会員会費	0	76,000	
2 事業収入			
・環境保全を図る活動	0		
・社会教育の推進を図る活動	0		
・国際協力の活動	0		
・関連団体の運営・活動に関する連絡、助言、援助	0		
3 寄付金収入	900	900	
4 助成金収入	0	0	
5 雑収入	85	85	
経常収入合計			76,985
経常支出の部			
1 事業費			
・環境保全を図る活動	0		
・社会教育の推進を図る活動	164,350		
・国際協力の活動	0		
・関連団体の運営・活動に関する連絡、助言、援助	1,750	166,100	
2 管理費			
・消耗品費	3,131		
・通信費	2,626		
・会議費	6,220		
・その他(支払手数料・租税公課・諸会費)	597	12,574	
経常支出合計			178,674
経常収支差額			▲ 101,689
その他資金収入の部			
その他資金収入合計	0	0	
その他資金支出の部			
1 固定資産取得支出	0		
2 法人税等	0		
3 その他	3,000		
その他資金支出合計		3,000	3,000
その他資金収支差額			▲ 3,000
当期収支差額			▲ 104,689
前期繰越収支差額	108,332	108,332	108,332
次期繰越収支差額			3,643

計算書類に対する注記

1.重要な会計方針

資金の範囲は現金預金としています。

2.固定資産はありません。

3.保証債務、担保提供資産はありません。

(第3号議案) 平成21年度事業計画(案)

1. フィールドプログラム

- ・以下のフィールドプログラムを候補として、担当者により内容・時期等を設定していただき、できるものから行う予定です。
- ・このほか、会員のご意見・要望をもとに計画を組んでいきたいと考えています。

候補プログラム名	対象	担当者
水路ピオトープの自然観察(豊科東小学校)	会員、小学校関係者	山田、松井
放棄水田の植物観察	一般募集	島野、松本
明科白鳥飛来地対岸での水辺観察会	一般募集(親子)	東城、百瀬
松本市街地の湧水路観察	会員、希望者	山本、百瀬
松本市内のホタル発生地マップの作成	会員、希望者	
水の碑の記録整理		

2. 研究助成事業

- ・当会の活動に沿う趣旨の助成事業に対し、積極的に応募します。
- ・会員へお知らせし、企画作成作業への協力依頼を行います。

企画(案)

水路ピオトープを用いた学習活動プログラム(豊科東小学校)(H21.7)
湧水起源用水路の再生(松本市街地の湧水路の歴史文化と自然を活かした街づくり)
松本市内のホタル発生地マップの作成
安曇野のオオルリシジミ保全・保護活動(H22.4.5)

3. 川の自然と文化 談話会(趣旨・内容は右囲み欄)

- ・会の活動の活発化を目指し、会員の参加により、気楽な雰囲気、話題の提供と交流会を行う
- ・当面、1回/月の頻度で実施(月末金曜日)

4. 研究集録出版事業

- ・研究集録第2~3号・・・21年度内の発行を予定する
- ・「川の自然と文化講演会」講演記録の出版に向けた取り組み(記録起こし)
- ・助成事業成果報告書

5. 講師派遣

- ・内規による運用を図る(ホームページによる案内)

6. 委託業務への対応

- ・内規による運用を図る(ホームページによる案内)

川の自然と文化 談話会について

(東城理事からの提案趣旨・内容)

堅苦しくなく、話題提供者を囲んで1時間ほどのセミナー的雰囲気の談話会を設け、むしろ、メインはその後の二次会(飲み会)と考えています。

以下に現在の話題提供の可能性について列記してみました。島野先生、戸田先生、山本先生の研究室の学生さんはじめ、会員の皆さんの話題を順繰りに聞きながら、この話題を肴に楽しく飲む機会を設けていけば、1回/月での運営もできるような気がします。

まずは、7/31(金)の19:00~に初回を企画してみたいと思います。場所は、大手の市民活動サポートセンター、あるいはあがたの森公園内あたりを考えています(近くにお店があるので)。

スタートさえ切ってしまうと、何とかつづくのではと楽観視していますし、苦しくなれば、その時点で1回/2月にしてもよいと思います。とりあえず、しばらくは、私が担当で運営してみたいと思います。

毎月、「月末の金曜夜」は談話会(続けて二次会)という形で定着させられれば、スケジュールにも入れやすいですし、談話会には間に合わなくても二次会からの参加などという人が現われるような楽しいイベントになればと期待します。

そして、月一回程度の地域の情報を交換できる会になれば、輪も少しずつ広がるかと期待します。

まず、言い出しっぺの私が、初回の話題提供をさせていただきますしたいと思います。

タイトル:「絶滅危惧水生生物・コオイムシとタガメの生物学 -分類・生態・系統・進化・発生、そして食材としての見地から-」

日本では絶滅危惧種としてリストアップされていますが、信州では、ことコオイムシに関しては増えてきているとも言われます。そして、これらの昆虫がたくさん暮らす東南アジアでは貴重な食料源になっています。今年の1月にタイを訪れた際に(会員の鶴石さんも現地と一緒にいました)、市場で売られている様子や、その採集方法について、さらにはタイの研究者が実施したアンケート調査「何故にタガメを食べるのか?」の大変興味深い結果も紹介したいと思います。ついでに、タイの市場で売られている水生生物の数々を写真で紹介します。二次会では、実際に塩漬けのタガメも味わってもらおうかと思っています。

このほか、翌月以降のネタ候補としては、
 ・千曲川・天竜川に棲む「豊年蟲(オオシロカゲロウ)」の大発生(単為生殖集団の起源・繁殖システムなど)
 ・松本平・伊那谷でのトノサマガエル・トウキョウダルマガエル・ナゴヤダルマガエルの分布と交雑(最近、安曇野地域でのトノサマガエル・トウキョウダルマガエルの交雑が、遺伝子解析からも確認されました)
 ・天然記念物「ミヤコタナゴ」の遺伝的多様性と保全
 ・ダムに沈む? 東海地方のナガレホトケドジョウの遺伝的特性

などを考えていますが、昆虫や魚に加え、植物や水鳥、水質、水文化、ピオトープの話題等も織り交ぜながら、展開していけたらと思います。

7. あづみ野市民環境ネットワークへの加盟検討

(設立趣旨) 説明書より

安曇野市には、環境関連の市民団体が様々な活動を展開し、環境活動へも関心と意欲を持つ市民も多数います。また、地域の事業者は、事業活動における環境への配慮や、事業を越えた社会的貢献としての環境活動を実施しています。そこで、「あづみ野市民環境ネットワーク」(仮称)を設立し、市民・事業者・行政の連携を図り、多くの人々とともに環境保全の必要性を理解し、人と自然が調和したより良い環境を、将来を担う子どもたちに引き継いでいこうと決意しました。

あづみ野市民環境ネットワークは、「環境田園都市安曇野」を目指して、環境保全活動を実践されている方の連携の場の提供、各種環境保全プロジェクトの企画・実践、市民とともに行う環境イベントの実施及び環境に関する情報の収集・発信・学習などに取り組んでいきます。

(現状と今後の予定)

これまで、安曇野市からの要請により、約30団体の参加による設立準備会が開催され、ネットワークの位置づけと役割、規約等に関する議論・検討が行われてきました(5月より毎月、全4回を予定)。

今後は、設立総会(9月に予定)に向けて、会の正式名称、設立趣旨・規約、活動内容等の調整を行う予定です。その結果を踏まえて、当会として加盟の有無を決定していくこととなりますので、改めて、経過・内容を報告します。

8. 事務局・理事会の活動

円滑な会の運営を図るため、以下に示す活動を進めます。

- ・会員の確保(年内;正会員30、学生会員10、賛助会員5)
- ・情報の収集・発信(出版物の紹介、イベント等の情報収集と案内:随時)
- ・ニュース・レター「川の自然と文化」の発行(定期:年4回 6月、9月、12月、3月)
- ・「川の自然と文化談話会」のサポート(連絡、会場確保ほか)
- ・研究助成申請、研究助成テーマの選考・周知(随時)
- ・ホームページの改訂作業(随時)
- ・会員登録情報の整備・セキュリティ確保対策(随時)
- ・他のNPO法人等との交流(随時)
- ・「川の自然と文化講演会」第5回開催(平成22年6月)に向けた準備

- ・円滑な総務経理事務(随時;現地調査時保険加入手続き、決算処理、申告、出納管理、会費等)
- ・事務局会議(年4回:6月、8月、12月、4月)、理事会(年4回:6月、9月、12月、4月)の開催
- ・未収金への対応・処理:会費未納会員へ連絡し、継続意思の確認を行った上で処理する。

ホームページの更新について(H20.9.17 理事会)

(方針)

- ・広く不特定多数の方に見てもらい、理解者・参加者・会員を増やしていくツールとしての位置づけ。
- ・リニューアルを検討する。また、ホームページ担当者を設置するなど、内容の充実化と更新の頻度を高める。
- ・常に新しい情報が見られるように、イベント開催のお知らせ・結果報告、イベント・セミナー等の参加報告、研究集録の発行案内、本の紹介などを行う。
- ・会員のページ、公開のページに分け、ブログ形式にして書き込み自由とする方法も検討する。
- ・研究集録は、今後PDF化してホームページからダウンロードできるようにしていく。
- ・今後、自然・歴史文化・教育との関わりを意識した内容の充実化を図る。
- ・会員による情報提供をお願いするとともに、ニュースレター記事・研究集録原稿の執筆を依頼する。

活動資金確保に向けた取り組み(H21.4.18 理事会)

年間支出は、ある程度把握されてきている(約15万円;研究集録印刷費を含む場合)、今後円滑な事業活動を進めていくためにも、安定した収入の確保が必要である(20万円程度)。

このため、

- 会員を増やすための活動(現在の会費収入6万円程度)
- 助成金の確保
- 団体会員の確保(企業とのパートナーシップ)
- 支出の削減
- 活動内容の見直し

等の方策が考えられるが、特に ~ を中心に展開を図るとともに、これまで未実施であった についての活動を行う。

「川の自然と文化」講演会の今後の展開(H21.4.18 理事会)

今後の講演会テーマとして、単発的なものでなく、

一般市民に対して、日常につながっている水との接点を再認識していただくこと、会の活動を紹介することを意図して、3年先、5年先までを見据えて、計画的に自然系と歴史文化系の共通テーマを設定し、会員による発表を中心に考えていくことを目指す。

テーマとして、会員の取組や要望も聴取し、計画的に準備、対応を図る。一例として、

- ・水辺の景観
- ・ザザムシの話し(生態、食文化)
- ・防災(災害伝承、防災対策)
- ・用水路・堰
- ・温泉(泉質・成因、利用)

9. 活動スケジュール(案)

	行事	事務局
H21/6月	理事会	事務局会議 ニュースレター
7月	第4回総会、川の自然と文化講演会 談話会	講演会講師源泉徴収税納税 減免申請(安曇野市)
8月	フィールドプログラム 談話会	事業報告書2部提出(県松本地方事務所 NPO 担当部局)
9月	理事会 談話会	事務局会議 ニュースレター
10月	あずみの環境フェア フィールドプログラム 談話会	
11月	談話会	
12月	理事会 忘年会 談話会	事務局会議 ニュースレター
H22/1月	談話会	償却資産申告(安曇野市)
2月	談話会	
3月	談話会	ニュースレター
4月	理事会 談話会	事務局会議
5月	フィールドプログラム 談話会	事務局会議
6月	理事会 平成22年度定期総会、理事改選 第5回川の自然と文化講演会	ニュースレター 理事就任要請・承諾書 大学への職員の理事就任依頼
7月	談話会	講演会講師源泉徴収税納税 法務局登録更新手続き(2年に1回) (総会議事録、定款添付)

第4回「川の自然と文化講演会」報告 事務局

今回は、「里地・里山の森と暮らしと水」と題し、豊かな水を背景に成立した山と里の森に着目し、そこに生活する動植物や人の暮らしと森とのつながりをテーマとしました。

- 「屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト」
(場々洋介氏 安曇野の屋敷林と歴史的町並みプロジェクトリーダー、(株)フジ設計代表)
- 「雑木林に見る人とチョウの不思議な関係」
(渡邊祐喜氏 信州大学理学部卒業生)

せせらぎ(事務局だより)

談話会へ気軽にご参加ください

月末の金曜日19時より談話会を開催します。会員でない方も参加できますので、お誘い合わせの上、気楽にご参加ください。

また、フィールドプログラムの実施も検討中です。

ニュースレターの原稿を募集します

研究報告、随筆、感想文、紀行文など、水に係わる内容であればジャンルは問いませんので、是非とも投稿をお願いいたします。投稿先は、m-info@smcf.org、または郵送でも構いません。

会費納入のお願い

平成21年度会費の納入をお願いいたします。正会員3,000円、学生会員1,000円です。

郵便振替口座 00530-8-58581

銀行口座 八十二銀行西松本支店 普通 376187

口座名称 NPO 法人川の自然と文化研究所

編集後記

当法人も、平成18年2月に設立登記をしてから3年半を経過しました。この間の活動を振り返りますと、もっと事務局の積極的な動き(会員交流、情報発信等)が必要であったように感じています。会員が増え、会員同士の交流が深まることで、会の活動が継続的に活発に行われるようにしていきたいと考えています。

今後とも、皆さんからの叱咤激励、投稿等をお願いいたします。

NEWS LETTER [川の自然と文化] No.9

2009年8月12日

特定非営利活動法人 川の自然と文化研究所事務局 発行

〒390-8205 長野県安曇野市豊科2209番地11

TEL/FAX (0263)72-3768

HP <http://www.smcf.org> e-mail: m-info@smcf.org